

あぜみち

No.9
平成31年2月1日

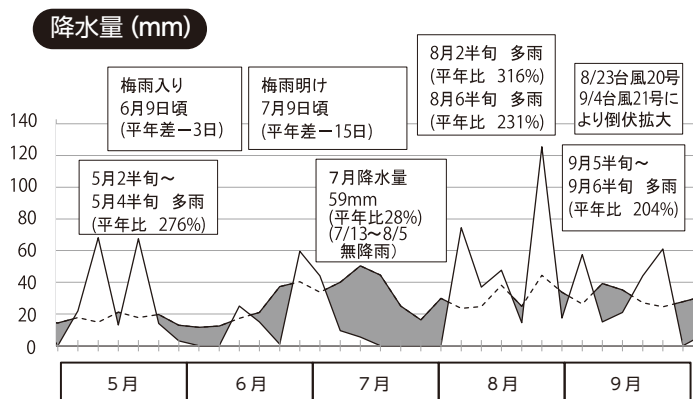
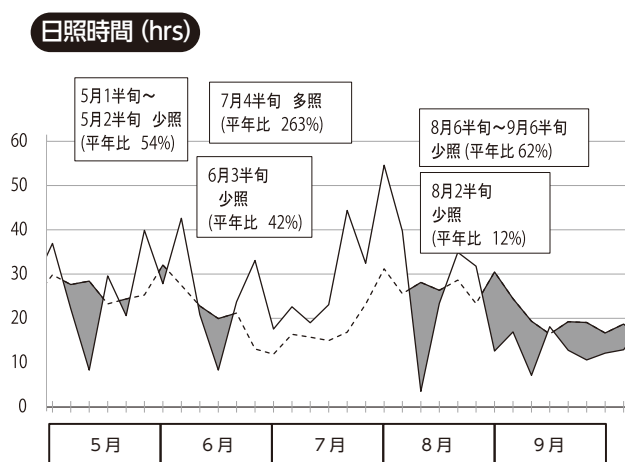
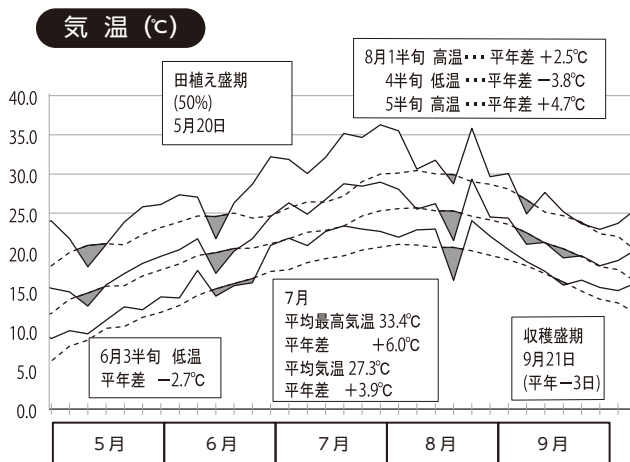
● 営農センター TEL 782-1171

稲作技術情報

1. 平成30年の稲作状況について

初期生育は順調に推移したものの、過剰気味の茎数による有効茎歩合（最終穂数 / 最高分け期茎数）の低下（68%）、7月下旬から8月上旬にかけての高温（一部湯水）、8月下旬から9月以降の少日照に加えて台風（20号・21号）の影響も大きく、結果的に、籾数の減少、登熟歩合・千粒重の低下による収量の減少（魚沼作況指数 97）、その他未熟粒・青未熟粒の発生を中心とした品質の低下（1等米比率 77%）と、課題を残す年となりました。

平成30年度気象グラフ（観測地点：南魚沼城内開発センター） H30.5.1~H30.9.30



— : 本年値
- - - : 平年値

平年値は、昭和57年から平成29年までの半旬別平均値を表す

2. 主な品質低下要因と次年度対策

本年度、特に問題となった主な格落ち要因は「その他未熟粒」、「青未熟粒」、「心白粒」であり、原因分析と対策が求められます。

主な格落ち要因別の対策

① 除青未熟粒 40%

特徴 青未熟粒を除く、玄米の厚みが無く扁平なものや、幅が細い、表面の縦溝が深いなどの充実不足の粒。

発生要因

- 登熟期の水不足、地力の低下(後期栄養不足)により発生が増える。
- 茎数や籾数が多く、一粒一粒への養分供給が不十分な場合に発生が増える。
- 異常高温や強風フェーンなどで多発生を招く。



② 青未熟粒 36%

特徴 粒の表面に葉緑素が残り、緑色の粒になる。

発生要因

- 登熟期の低温
- 早刈り、生育に差がある部分(水口)などの刈り取りで多くなる。
- 早期で倒伏を招いた場合に多発生する。



③ 心白粒(未熟粒) 20%

特徴 粒の中心が白く濁って見えるものをいう。デンプンとデンプンの間に隙間ができており、光が乱反射するため白く濁って見える。

発生要因

- 登熟期間の平均気温が高く日照不足で発生助長
- 茎数や籾数が多く、一粒一粒への養分供給が不十分な場合に発生が増える。
- 出穂期の葉色が薄い場合に発生可能性が上がる。



高品質・良食味米生産に向けた次年度対策

作土深15cm確保と、継続的な土づくり

- 根の活力の維持・向上及び、フェーンや高温障害への抵抗力を高めるために、耕深15cmを確保。
- 稲が必要とする養分・水分の安定的な供給や、異常気象等外的要因の影響緩和のための「土づくり資材」の活用。(3ページ以降参照)

高品質・良食味米生産への栽培技術の実践

- 穂肥実施可能な稲づくりと、後期栄養凋落の防止
- 適正な水管理による良質茎早期確保と、的確な中干し・溝切りの実施
- 適期刈取(稲の黄化率85~90%確認)と、適正な乾燥調製

3. JAしおざわ管内水田土壌調査分析値(平成30年調査)

平成30年に実施した管内150点の土壌調査結果です。色についている部分が基準値に対し成分が不足していることを示しています。積極的な「土づくり」に努めましょう。

調査地区	陽イオン 交換容量 CEC me	有効態 ケイ酸 mg/100g	遊離 酸化鉄 %	
	地力増進	品質・食味向上	秋落ち防止	
基準値	15.0	25.0	1.5	
五十嵐、関山	19.9	48.6	1.5	
関、上野	20.0	30.6	1.4	
宮野下、小刈、上一日市、下一日市	20.1	23.1	1.6	
君沢、東之木、大宮、大沢	24.4	38.0	2.0	
大沢山	33.6	34.0	1.0	
砂押、南田中	23.1	20.0	0.6	
塩沢	21.1	20.1	3.0	
目来田、中	15.2	20.9	0.9	
樺野沢、天野沢、泉盛寺	30.8	42.5	2.5	
栃窪、岩之下	26.4	56.1	2.3	
吉里	21.5	36.6	2.5	
思川、片田	14.8	23.5	2.9	
竹俣、島新田、上十日町	14.5	17.1	1.5	
中子	14.2	17.8	1.1	
中野、古川、小杉	11.9	20.5	0.9	
大里、小木六、八竜、大木六	11.5	19.5	1.2	
吉山、原、柄沢	11.6	49.3	1.7	
新田前田原、仙石、舞子	12.2	21.0	1.4	
大原	33.3	112.6	3.2	
万条、姥島	13.5	30.5	2.1	
坪池、論丸、五郎丸、徳田	15.5	17.3	1.4	
雲洞、枝吉	15.2	14.1	0.7	
三郎丸、早川	12.4	29.8	0.9	
金清坊、中之島、広道、掛之下	12.1	27.6	2.5	
原芝野、横新田、上神字、姥台	14.1	42.5	2.2	
滝谷、沢口、小松沢	11.7	32.5	2.2	
一之沢、蟹沢	11.7	49.5	1.8	
上神立地域	14.6	19.2	1.1	
下神立地域	17.2	22.2	1.0	
堀切、楽町	14.2	26.9	0.9	
小坂、滝之又、谷後	20.8	56.8	1.5	
添名、中里、松川	21.3	44.7	1.6	
平均値	平均値	18.0	33.1	1.7

4.土づくり資材の活用

米づくりには「土づくり」が不可欠です。昨年のような気象変動の影響を最小限に抑えるために、土づくりは重要なポイントになります。平成31年産の高品質・良食味生産に向け、地域で不足している成分を確認し、土づくり資材の施用を行いましょ。

JAしおざわ おすすめ土づくり資材

※表示価格は1袋あたりの税込価格です。

○ケイ酸を多く含む資材 (不足している地域：中之島地域全域、上田地域全域、湯沢地域全域)

★スーパーシリカプレミアム 20kg入り

特徴 高溶出ケイ酸の割合が高く、少量でもケイ酸の効果が期待できます。比較的安価であるため、低コスト土づくり資材として特におすすめです。(アルカリ40、ケイ酸30、苦土2)

特におすすめ

2~3袋 / 10a

参考価格

1,274円 (税込)



★みつパワー 20kg入り

特徴 ケイ酸、苦土による土づくり効果のほか、慢性的に不足しがちなマンガンを含むため、ごま葉枯れ対策に役立ちます。(マンガン10.0、ケイ酸25.1、苦土2.7、カルシウム21.7、鉄1.7)

特におすすめ

2~3袋 / 10a

参考価格

1,047円 (税込)



○腐植酸を多く含む資材

★魚沼ロマン土づくり 20kg入り

特徴 ケイ酸、苦土のほか腐植酸を20%含みます。60kg投入で堆肥500kgと同等の腐植酸が入るため、秋落ち田、地力の低い圃場に適します。(リン酸7、苦土9、ケイ酸18、腐植酸20、アルカリ24)

2~3袋 / 10a

参考価格

2,527円 (税込)



○鉄を多く含む資材 (不足している地域：石打地域北部、塩沢地域、中之島地域全域、上田地域北部)

★ソイルキーパーFe 20kg入り

特徴 通常土づくり資材に含まれるケイ酸、苦土のほか、鉄を多く含む資材。砂地で秋落ちする水田には特におすすめです。ワキ、根腐れの減少も期待できます。(アルカリ35、ケイ酸13.5、苦土1.5、鉄19)

3~5袋 / 10a

参考価格

1,306円 (税込)



※昨秋施用していない圃場はこの春施用しましょう!!